

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
http://saitokuji.tobihiro.jp/  
発行人 脇阪 義幸  
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



## 暮らしの中の仏教



コロナ対策をとしての華香所のお手伝い

### 今月の予定

#### 8月

7日(金) 午後2時 評議員会役員会

13日(木)～16日(日) 盂蘭盆会

25日(火) 午後3時 総代会

#### 9月

1日(火) 午後2時 燈虹塾セミナー  
(人数制限あり。お問合せください。)

4日(金) 午後3時 評議員会総会

5日(土) 午後6時 同行会『宗祖親鸞聖人』に聞く  
法話：山崎 哲

※予定は変更することがあります。また、コロナ禍でありますので、直前に中止する場合があります。詳しくは寺務所までお問合せください。



### 西徳寺BBQ大会 中止のお知らせ

8月30日(日)に開催を予定しておりました【西徳寺主催 BBQ大会】ですが、新型コロナウイルス感染防止のため、本年は開催を見送ることとなりました。

毎年楽しみにしていただいている皆様、ご参加をご検討いただいていた皆様には大変申し訳ございません。

何とぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

# 8月の山門の言葉



## 変わる眼(都合) 変わらぬ事実



6月号の「えこお」、慶所聞に本堂に迷い込んだハトを追いついたために、ハトとの壮絶なバトルが繰り広げられたことを書いた。その投稿を見たあるお同行から感想をいただいた。

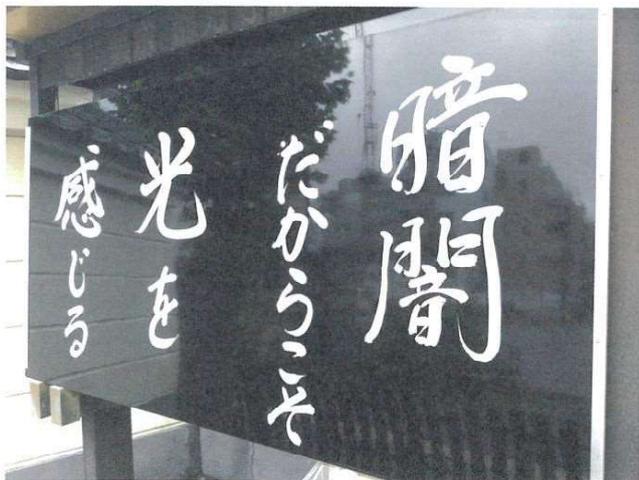
お同行は、想定外のハトとの格闘がコロナの閉塞感を突き破っていたことに触れ、ご自身もコロナ禍の最中、引越しを余儀なくされた。ステイホームに逆行する形となり、落ち着かない心持ちだったそう。ペラペラにやってくる鳥の姿や、さえずりに慰められる毎日を送っている。そんな時、今一番の不安の元であるコロナのことは、すっかり忘れていた自分に気が付いたと、私の稚拙な文章を読んで感じられた。

決してコロナが終息したわけでもない。いわんや見上げる空が変わったわけでも、鳥が自分を慰めるために庭先に飛んできたわけでもない。唯一変わったこと、それは私の物事を見る眼(都合)である。

青く晴れた空も、どんより曇った空も、同じ空である。普段とくに関心もなく、取り立てて注目しない鳥も、コロナを忘れさせてくれる鳥も、同じ鳥である。しかしその事実を捻じ曲げ、都合のいいように解釈し、ありのままを受け取れないのが、私の姿である。

ハトがコロナがお同行が、自分では気づくことのできない、常に偏った眼しか持ち合わせていない我が身を教えてくれるよき師であり、よき友である。

(蓮井 邦宗 記)



七月に掲げた山門の言葉『暗闇だからこそ 光を感じる』を皆さんはどう聞いたのか、お尋ねしました。

みんなは  
こう聞いた!!



プラトンの洞窟の比喩を思い出しました。私たちが光だと思って見ているものは、実は壁に映った影に過ぎないというものです。しかし私たちの目は、本物の光に耐え得るのでしょうか?

(39歳 公務員)

私は目の色素が薄く、夏の太陽の光の下ではまぶしくて目を開けてられません。

光だけでは私たちの目にはまぶしくて何も見えず、そこに暗闇もあればこそ、物事を見ることが出来るのではないのでしょうか。どちらか一方だけでは成り立たないのだと思いました。

(30代 男性)





お斎ナビでは西徳寺にご法事、またはお参りに来られた方が立ち寄れる飲食店をご紹介します。

まだコロナウイルスの収束の兆しが見えないこともあり、しばらくは特別編として、西徳寺職員がお勧めする、お寺近くのお土産物をご紹介します。

今回は山崎・高橋・仲井お勧めのお土産物です。気になる物があれば、皆様どうぞお参りの帰りにお立ち寄りください。

ちくりゅうあん おかの

## 竹隆庵 岡埜 入谷店【ごごめ大福】山崎 哲

創業は昭和33年。本店(根岸)を含め9店舗。松坂屋上野店でも求められます。ごごめ大福の由来は、江戸庶民の間で喜ばれたお菓子の「ごごめ餅」があり、ある時、根岸の里の茶屋がこの餅に餡を包み入れ、上野輪王寺宮公弁法親王に献上したところ、お誉めの言葉を頂き、これを「ごごめ大福」と名づけられたとのこと。甘さ控えめで二つは軽くいただけます！

子供達も大好きなのは、妻の実家へ結婚のご挨拶に伺った時、手土産にしたから・・・かもしれない(笑)。

東京都台東区松ヶ谷4-28-3  
TEL: 03-3842-4617



竹隆庵 岡埜 入谷店



ノーマル派の末っ子



風情があります

どっちも食べたい!

## やげん堀【七味唐辛子】高橋 淳

創業・寛永二年(1625)、初代からし屋徳右衛門が漢方薬をヒントに七味唐辛子を考案。両国橋付近(現在の東日本橋)から昭和十八年に浅草に移り現在に至る。

「やげん(薬研)」とは、漢方薬などをつくる時薬種を細かい粉にひくのに用いる器具のこと。創業地にあった運河の堀底の形状がV字型で、薬研の窪みに似ていることから周辺の地名も「やげん堀」と呼ばれるようになりました。

私は浅草土産としてよく利用させていただいております。「ひょうたん型」の入れ物も実に様々！ぜひご賞味ください。通販サイト(<https://yagenbori.jp>)もあります。

新仲見世本店 東京都台東区浅草1-28-3  
営業時間 10:00 ~ 18:00



## 梅むら【豆かん】仲井 真裕

私がお勧めするのは観音裏と呼ばれる浅草3丁目、梅むらの「豆かんてん」。創業は昭和43年という老舗甘味処です。

宝石のように黒く光る豆は赤えんどう豆、テングサを使った寒天に黒蜜をかけていただきます。素朴で丁度よい甘さ。そして程よく炊かれた豆の食感が素晴らしいです。

お店でいただくこともできますが、あんみつ・みつ豆・ところてん等はお持ち帰りができます。お勧めです！

台東区浅草3-22-12 Tel 03-3873-6992  
12:30 ~ 18:30 ラストオーダー 19:00 閉店  
定休日：日曜日



## 私のいいね!



### 「書道」 山崎 哲

書道を始めたのは15年ほど前。火葬炉の前にいくつかのお位牌が並んでおり、西徳寺のお位牌が一番よかった。自分が書いた訳でもないのになにか誇らしかったのを覚えている。当時は大谷顧問や、亡き木村住職が書かれていた。それがきっかけだった。

しかし小学生や中学生に交じっての習い事、なかなか思った通りにいかず挫折。先生のご指導と励ましでなんとかここまで続けてこられた。やっとライフスタイルになったのかなあと感じている。今は書くことそのものがとても楽しい。

先生はお手本をしっかりと見ることを教えてくださった。しかし同時に「山崎さんらしさ」ということも大切にしてくださいました。真似ることと自分らしさの矛盾に難しさ面白さを感じる。また驚いたことは、線の描き方よりも、むしろ空間(間)をご指導いただくことだ。いずれも、生きることになにやら通じるものがあるんだと思う。書道に出会えたことに幸せを感じる。



## えこお志お礼

世田谷区 塚本 和子 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。  
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。



## 慶所聞

～よろこび合う生活～

最近、知る力が強くなり、聞く力が衰えていると感じます。誰かの話ではなく私のことで、何かを調べるなど知ることは便利になり、すぐにできるようになりましたが、人の話をじっくり聞くということが、少し苦手になっているように感じるのです。

編集後記であるこの「慶所聞」、聞く所を慶ぶ。この慶びは、誰かによろこばれるよろこび、また、誰かのよろこびが私のよろこびになることだと教わります。

特別企画「よろこびを<sup>おも</sup>念う」を企画してみて、コロナ禍ではありますが、本当のよろこびとは何なのか、深く考える機会をいただきました。

制作にご協力いただきました責任役員の皆様、5ブロック会長の皆様に御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。(仲井 真裕 記)

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座  
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook